

主任 監督官	工事 監督官

某厚生施設新設通信工事

施 工 計 画 書

平成 年 月 日

〇〇株式会社

目 次

1. 工 事 概 要
2. 実 施 工 程 表
3. 現 場 組 織 表
4. 主 要 材 料 使 用 計 画
5. 施 工 管 理
6. 施 工 要 領
7. 緊 急 時 の 連 絡 体 制
8. 安 全 管 理
9. 仮 設 計 画
10. 残 土 処 理

1. 工事概要

(1) 工事件名

某厚生施設新設通信工事

(2) 工事場所

大阪府

自衛隊駐屯地

(3) 工 期

自) 平成00年 00月00日

至) 平成00年00月00日

(4) 工事概要

厚生施設新設に伴う電話・拡声・テレビ共聴設備工事及び構内線路工事を施工する。

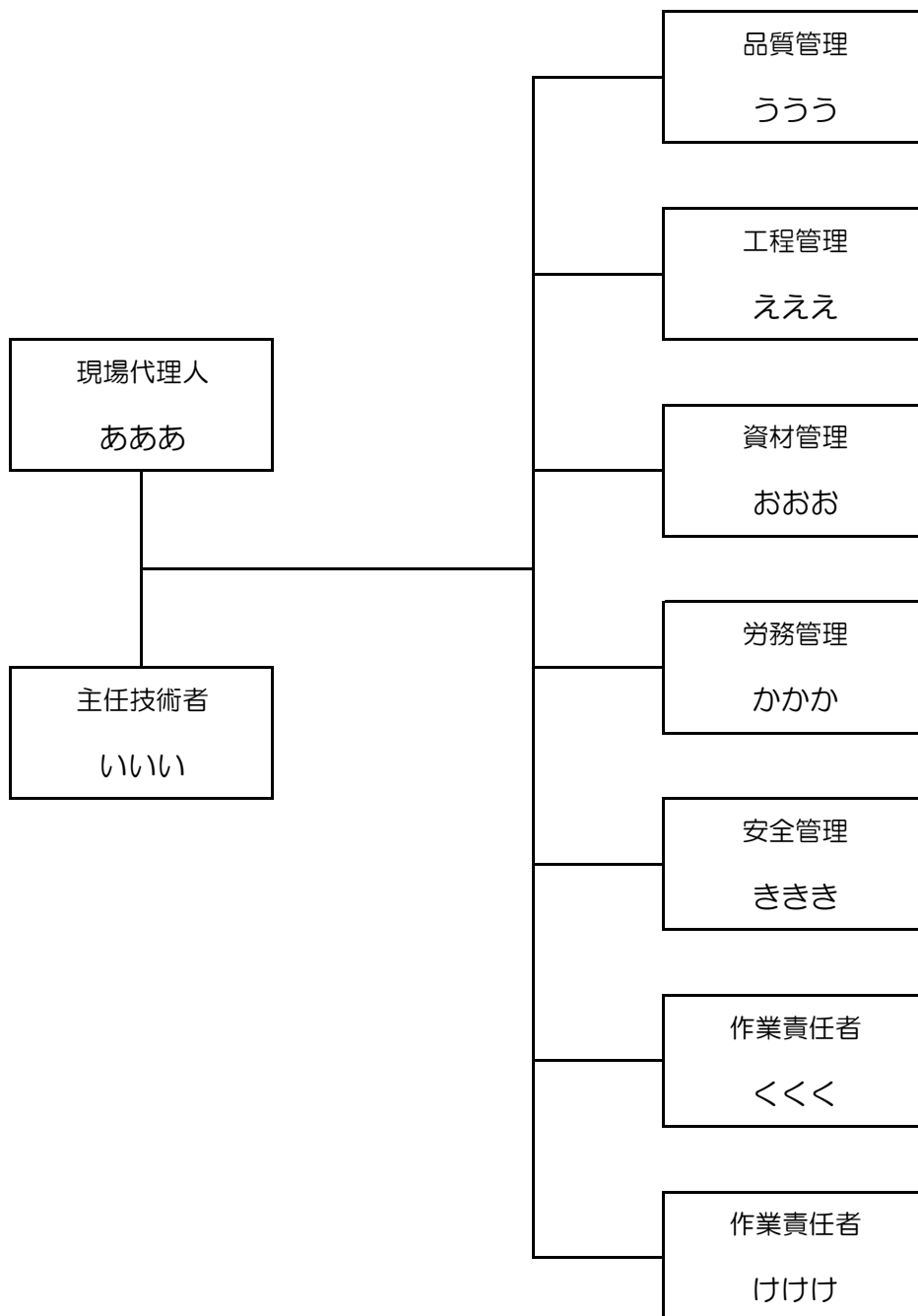
(5) 工事内容

- ① 厚生施設新設宅内工事（電話・拡声・電気時計・テレビ共聴設備）
- ② 既設隊舎001号建物宅内工事（電話設備）
- ③ 既設隊舎002号建物宅内工事（電話・拡声設備）
- ④ 既設隊舎003号建物宅内工事（拡声設備）
- ⑤ 構内線路工事
- ⑥ 撤去工事

2. 実施工程表

別紙参照

3. 現場組織表



4. 主要材料使用計画

材料名	型式	単位	数量	製造者名
CCP 100P 以下	CCP-P	式	1	
CCP 200P 以下	CCP-AP	式	1	
構内ケーブル	0.5-P	式	1	
CPEV	0.9-3P・6P	式	1	
同軸ケーブル	S-7C-FB	式	1	
同軸ケーブル	S-5C-FB	式	1	
塗覆装鋼管	PS.ASC	式	1	
硬質ビニール管	VP	式	1	
電線管	PF・E・PS	式	1	
マンホール	T-3.+2	基	1	
ハンドホール	3-130	基	1	
鉄蓋		枚	1	
端子盤		式	1	
拡声機器		式	1	
端子板	5対切分	個	1	
端子板	5対接続	個	1	
テレビアンテナ架台		式	1	
テレビ共聴機器		式	1	

5. 施工管理

(1) 施工基準

本工事は、契約書、設計図によるほか、下記に基づいて施工管理します。

- ・ 本工事特記仕様書
- ・ 通信工事共通仕様書
- ・ 電気工事共通仕様書
- ・ N T T 工事仕様書

(2) 出来形計画

工種	細 別	出来形管理		写真管理	
		項 目	測 点	出来形	状 況
地下線	管路布設	掘削	深さ 巾	同 左	着工前 掘削状況 管布設状況 転圧状況 標識テープ 埋設状況 復旧状況 立上り状況
		布設	管・間隔 土・被り		
		埋戻し	標識テープ 深さ		
		復旧	路盤厚さ 表層厚さ カット巾		
路工	ハンド・ホール マンホール設置	掘削	深さ 巾	同 左	着工前 掘削状況 地業状況 形枠状況 コンクリート打設状況 首部状況 埋戻し状況 転圧状況 復旧状況
		基礎事業	厚さ 巾		
		マンホール	巾 高さ 厚さ		
		防護 コンクリート	厚さ 巾		
		復旧	路盤厚さ 表層厚さ カット巾		

(3) 写真管理計画

写真管理は、前出(1)、(2)項によるほか、「工事写真の写し方」に基づき管理します。

(4) 品質管理

① 着工前

- ・特記仕様書、設計図面、施工計画書に基づき各作業員に規格等を周知します。

② 施工途中

- ・現場代理人は随時現場を巡回し、工法指導を行います。
- ・特に隠蔽工程については立会、写真撮影を行い、手直しのないよう努めます。
- ・社内検査担当者は随時検査を行い、良好な品質の維持に努めます。
- ・変更等がある場合は、施工図により監督官の承諾を得て、施工を行います。

(5) 機材管理計画

- ① 工事発生主要材料は、特記仕様書記載のメーカーへ発注し、その他の材料は、規格にあった品質を搬入します。
又、必要に応じ承認図面を提出します。
- ② 主要機材搬入に関して納品書を監督官へ提出し倉庫へ保管します。

(6) 施工検査

原則として、下記の時期に検査を受けるものとします。

- ① マンホール・ハンドホール設置・管路布設完了時
- ② 宅内工事完了時
- ③ テレビ共聴設備完了時
- ④ 諸試験・測定時
- ⑤ その他監督官の指示による時期

6. 施工要領

(1) 地下線路工事

- ① 設計図に基づき施工図を作成し、マンホール・ハンドホールの位置を決定し、管路埋設ルートを決めます。
- ② 管路埋設ルート周辺の既存埋設物調査を実施し、必要な場合は試験掘りを行います。
- ③ 管路布設に先立ち、マンホール・ハンドホールを設置します。
(レジンブロックマンホール及びハンドホールは承認図面提出品を使用します。)
- ④ マンホール・ハンドホール設置後、管路布設を行います。
(隊舎部分は、建築足場の関係で管路布設を先に行います。)
 - ・ 管路は、所定の間隔及び深さに埋設します。
 - ・ 掘削は、オープンカット工法にて行います。
 - ・ やむなく開口したままになる場合は、バリケード・トラロープ等により安全養生を行います。
 - ・ 埋戻し転圧は20cm毎に行い、GL-30cmの位置に標識テープを布設します。
 - ・ マンホール・ハンドホールの管路を接続し、防護コンクリートを打設し管口を仕上げます。
- ⑤ 通過試験を行った後、舗装復旧を行います。

(2) ケーブル布設工事

- ① ケーブル布設に先立ち、管路内の清掃及び周囲の養生を行います。
- ② ケーブル上部が交換機側となるよう布設を行い、ケーブルに傷・変形を作らないよう充分注意し、施工を行います。
- ③ ケーブル布設後、接続・成端を行うまではケーブルの切断はしません。やむなく切断する場合は、防湿処理を完全に行います。
- ④ 保安器・端子板・接続端子函等を指定部位に取付けます。

- ⑤ ケーブル接続・成端に先立ち、ケーブル立上り部分の防湿処理を速やかに行います。
- ⑥ 芯線対照を行い、所定線番表に従い成端を行います。
- ⑦ 最終試験を行います。

（３） テレビ共聴設備・宅内工事

- ① 工事に先立ち設計図に基づき施工図を作成し、関係者（建築工事・設備工事）と綿密に打合せを行い、端子盤位置・配管ルート等の確認調整を十分に致します。
- ② ケーブルの入線は、傷・変形を作らないよう行います。
- ③ 機器の取付けに当っては、承認された機器を使用し、その性能を充分発揮出来るように致します。
- ④ 調整・試験・測定を行い確認します。

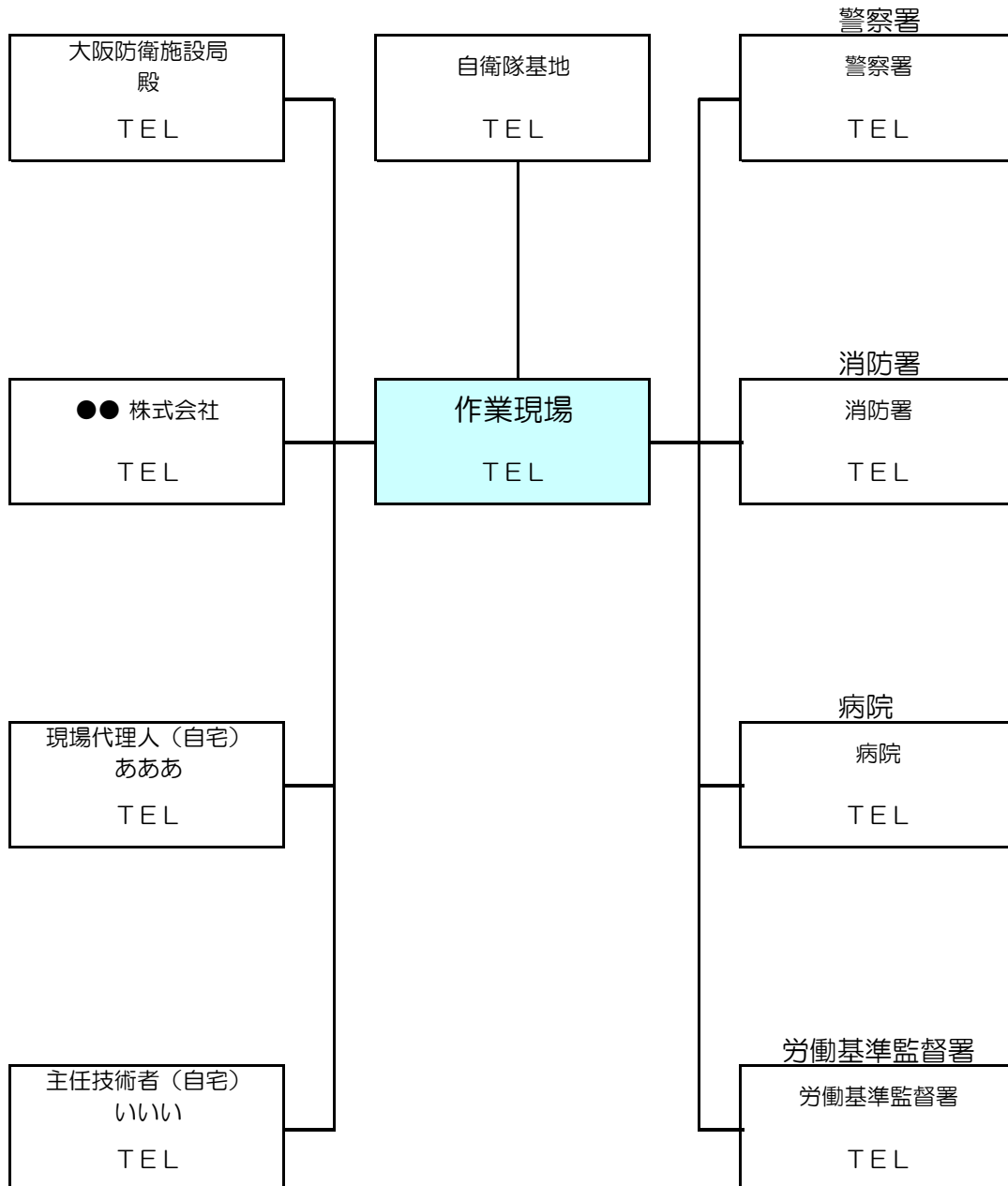
（４） 電話設備

（５） 拡声設備

（６） 時計設備

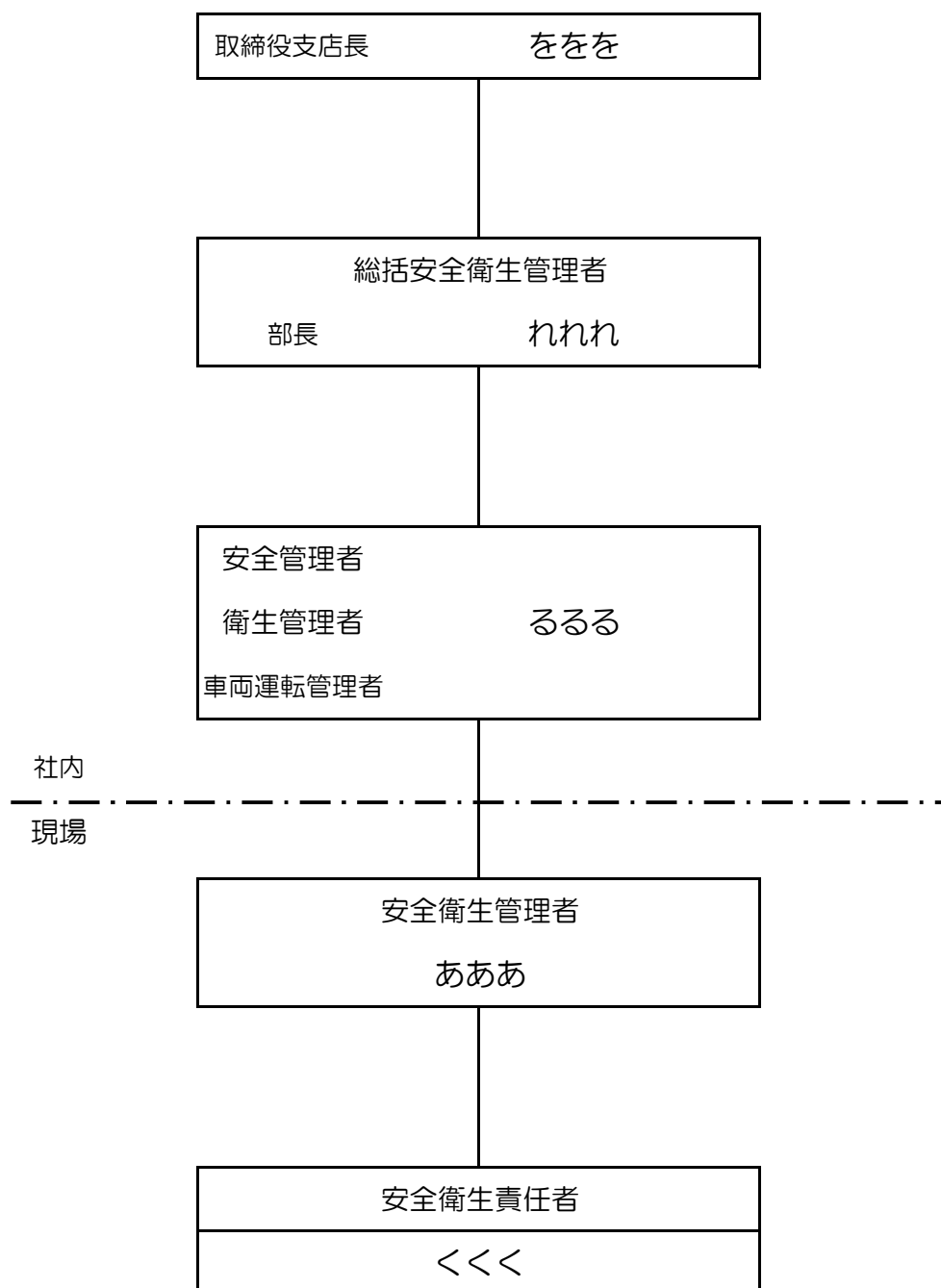
7. 緊急時の連絡体制

安全衛生管理組織の運営により、事故の無いよう万全を期しますが、万一の場合に備え下記の通り連絡先及び通報系統を定め、事故発生時には迅速にして最適な処置をとります。



8. 安全管理

(1) 安全衛生管理組織



(3) 安全対策

① 社内

- ・安全パトロールの実施
- ・安全衛生教育の実施
- ・重点安全衛生目標の設定

② 作業現場

- ・工事に先立ち、関係者と綿密な打合せを行い事故防止に努めます。
- ・健康管理に注意を払い、心身ともに健全な状態で従事する。
- ・救急用具を常備し、その設置場所、使用方法を周知徹底する。
- ・定められた作業衣、保護具を正しく着用する。
- ・連絡系統図・作業主任者・安全標識等の掲示。
- ・TBM・KYTの実施

③ 作業主任

- ・工種ごとに作業主任を定め、その直接指揮のもとに作業を行う。
- ・作業主任は作業員の危害を防止するため、次の事項を行う。
 - ア. 作業方法、順序等を作業員に指示する。
 - イ. 取扱う機器及び安全装置を点検する。
 - ウ. 取扱い機器及び安全装置に異常を認めた場合は、直ちに必要な処置をとる。
 - エ. 作業中、治具工具等の使用状況を監視する。

④ 防火

- ・火気取扱
 - ア. 火元責任者（作業責任者）を定め火気の手扱い、後始末の管理を行う。
 - イ. 作業場には火元責任者の氏名を明示する。

ウ. 火気取扱時は、周辺場所の状況を充分考慮します。

Ⅰ. 半田ゴテ使用時は、必ずコテ台を使用し、火傷等しない様充分注意する。

・喫煙場所

ア. 作業中、歩行中の喫煙は禁止し、喫煙所を使用する。

イ. 喫煙は専用の灰皿を用意し、指定された場所にて行う。

⑤ 交通管理

・工事着工に当たり、事前に工事方法、工事順序に対し交通管理を充分検討し、交通事故の発生を未然に防止する。

・基地内車両運行にあたっては、基地内規則を厳守させ、事故防止に努める。

・工事関係車両の運転手には交通規則を厳守させ、人家密集区域、学童通学区域では徐行運転を厳守するよう指導徹底する。

・一般通行車両を優先し、トラブルの生じないように努める。

9. 仮設計画

- ・ 仮設事務所を設けます。
- ・ 材料置場は同事務所の倉庫に保管する。

10. 残土処理場所

- ・別紙駐屯地配置図の場所に処分する。